童

2023 年 7 月 21 日.

連日の暑さ。日本各地が 35 度越えの時、東南アジアのタイは、31 度が最高だというニュース。もう、日本は、亜熱帯地方の仲間入りになったと思います。毎年毎年、異常な暑さと言い続けて 5 年ほど経ちます。もう、いい加減、亜熱帯になったので、それなりきの生活に転換していきましょうと言ってもらった方が安心します。

大地のキャンプも、5 年ほど前からテントは張らずに星空キャンプ専門です。海水浴は、5 月の連休から 6 月がベストです。そうです、テント泊は、7 月、8 月は無理です。3 月のキャンプでも、大地は　星空です。キャンプシーズンは、5 月から 6 月。焚き火キャンプなんて 7, 8 月なんてもってのほか。7 月、8 月の昼間の海水浴なんて、熱中症になりに行くようなものですね。どうしても海水浴を楽しみたいなら、大地キャンプのように、早朝 5 時位から 9 時位までがベストですね。

その意味では、昨年の早朝行事は、これからのスタイルになると思います。サマータイムのように、6 月中旬から 9 月までは、大地は、朝 5 時半登園　10 時半降園　というスタイルになるのも、そう遠くないかも。

豊野町の 18 号線通称アップルラインと言って、林檎のメッカでしたが、朝晩の冷え込みの厳しい高地（飯綱町や中野や山ノ内など）が、美味しい林檎の産地になりました。お隣の信濃町は、寒くて果樹ができなかったですが、これからは、林檎の産地は、そちらに移るでしょう。

雪の量を見ても、一目瞭然です。年々、スキー場の営業期間が短くなってきています。これだけ見ても、これからは、亜熱帯を受け入れて、生活様式から暮らしや余暇の過ごし方、行事や季節に応じたスポーツや遊びなどを、考慮工夫していくことが必要になるでしょう。大地でも、冬のクロカンなんてできなくなる可能性もありますね。

これから夏休み。様々な活動を、涼しい夜明けスタートにして工夫して、楽しんでみたらいかがでしょうか。

【楽観と希望】

「大学を卒業して新しい人生を歩んでいこうとしている君たちが、ハングリーで有り続け、愚か者であることを願う」ご存じ　スティーブジョブスの名言です。

新しい時代を切り開いた人は、既成概念や常識にとらわれず、他人から「できるわけがない」「そんなことをして何になる」と言われ続けた人だ、それでも失敗を怖れずに果敢に　かつ、愚直に自分の理想を追い求め続け、世間の常識を覆した人だ。自分の打ち込める仕事を見つけて、小さな成功で満足せず、また他人の嘲笑に怯むことなく、とことんやり抜いて世界の常識を変えよう、といったメッセージだと受けとります。

世界競争力は、今や 64 カ国中 35 位、アジア 14 カ国でも 11 位と言われています。低い要因は
①慣例や過去の成功体験にとらわれ、時代や世界のニーズを読めない　②新たなやり方でイノベーションを実現させる実行力の欠如　③国際的な視野に立ち、他国の懐に飛び込み協働する力に欠ける　④就職や社会に出てから、新しい知識や技能を勉強する機会や意欲が乏しい

簡単に言えば、好奇心やハングリーな精神が、ダイナミックではなく、非常にこじんまりしてしまっている、自分の損得勘定や自分と自分の周囲さえよけりゃいい、要領よく、楽していい思い、楽しければいいと言うのが賢い生き方という現代の風潮があるように感じます。

教育でも、シュタイナーやモンテソーリやさくらさくらんぼなどが良いと、それをコピーしてずっと疑いも無くやり続けるのではなく、常に　これで良いのだろうか、更に工夫してもっとよいものを（子どもや大人にとって）、現状に満足するのでは無く、更に理想を追い求めて、自分たちで考え工夫する事が、もっとも大切で有り、それは、試行錯誤、とにかくやってみる、怖れない、でも、必ずうまく行くという確信をもって挑戦する　ことを、楽しみ、ゾクゾクする気持ちでむかって行くのが、大地のいや青ちゃんの信念です。

楽観と希望の違い。**楽観主義者は「大丈夫」だと考え、悲観主義者は「うまくいきっこない」と考える。「それに対して希望とは、自分にできることを全部やって、うまくいくようにしようとする強い決意である」希望とは、「育んでいける」ものであり　「一生の間に変わりうるもの」　（ジェーン グドールの言葉より）**

青ちゃんの　「大丈夫　全然問題なし」などと自己暗示をかけて簡単にいう口癖がありますが、心中は背水の陣、全精神と熟慮全てをつぎ込めば必ずなんとなる、過去、必ず乗り越えてこれた、希望通りになった　という自信しかないのです。まさに、根拠ない自信ですね。だから、この、希望　の意味に巡り会った時、これだ！!!　とワクワクしました。

映画「夢みる小学校」のきのくにこどもの村の堀真一郎の言葉**「子どもにとって楽しい学校とは、ラクができる学校ではない。むしろ苦労し甲斐のある大きな仕事があって、しかもそれをやり遂げられる学校、そしてその大きな仕事や活動を成し遂げて、自分自身の成長が実感できる学校なのではないだろうか」**　青ちゃんは、この文章の中の「子ども」を「自分」に、「学校」を「人生」に置き換えて見ました。

更に堀さんの言葉　**「子どもにとって楽しい学校は、教員にとっても楽しい学校でなくてはならない。教員にとっていちばん大きな喜び、それは教材や教え方を自分や自分たちで工夫し、子どもたちと共に自分も成長する喜びであろう。世の中の教員はあまりにも忙しく、そして不自由である。そして笑顔が少ない。子どもの顔にも大人の顔にも自然と笑みがこぼれる学校、それが両者が共に成長している学校なのだ」**　この文章の中の「学校」を「家庭」に、「教員」を「親」に入れ替えてみよう。

冷戦時代の東欧諸国では、家族といった小さな集団で子どもを育てることが非効率だと考え、集団の収容所で育てようとした。独裁下のルーマニアでは、経済発展の為に人口増加が不可欠だと避妊と中絶を制限した結果、今度は忙しく働き子育てができない親たちが続出。そこでまとめて育てる収容所ができた。しかし、その実態は、異常な割合で子どもたちが収容所で死亡していたという。死因は、栄養失調でも暴力でも寒さでもなく、**なんと愛情の欠如による免疫力の低下**　だったという。

日本の現状に似ているように思う。共稼ぎで忙しい、子どもを働く親の負担にならないよう、保育園を増やして、朝から晩まで子どもを保育（収容する）しかも　親が楽なように駅近のマンションだったり狭い家だったり。全て、親にとって、便利で効率的に育てやすい環境を提供する。食事も家事も全て　効率的に行なおうとする風潮。これらは、独裁者が収容所を作って効率的に育てようとしたことと、けっしてかけ離れたものとは思われないと感じます。愛情の欠如　裏返せば　お金と便利さと効率さと楽さを求めた結果に、免疫力を引き換えに売り渡しているように思えます。

昔と比べて、現代の方が便利だと思う人は多くても、今のほうが、暮らしはシンプルで時間に余裕があると言える人はどれだけいるだろう。現代は、人類史上で一番便利で、一番忙しい世界だ。テクノロジーの進歩で、暮らしの中の複雑な作業をシンプルに、ムダを省かせ、時間を節約してくれたのに。新たな便利グッズ　テクノロジーを手にするために、更に働くという循環。そして、自殺率の高さ、うつ病などの増加　亜熱帯テクノロジー対応の暮らし方の熟慮を！